

明日 への 話題

不安に打ち克ち 新たな一歩を



公益財団法人 資本市場研究会
理事長

はやし
林

まさかず
正和

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年のわが国経済を振り返ってみますと、政府日銀はもとより関係者の皆様の着実な政策努力もあり、これまでとは次元を異にするような局面が見られるようになってきたと思われまます。資本市場周りで見ても、新NISAの導入や東証市場の改革等を踏まえて新たな競争、活性化に向けた動きが見られ、長年繰り返されてきた貯蓄から投資へのスローガンも今度こそと期待を抱かせるように思われます。出来得れば、こうした状況が継続し、安定的な発展過程へと移行して行ってほしいものです。

ただ他方、眼を広く内外に転じると、今年も引き続き私達が注意せねばならぬ多くの課題、危機が存在しています。地球規模での気候変動、巨大地震の頻発等の自然現象に加え、国際社会の分断化、国際紛争の多発激化、大国の国内政治経済状況の不安定化、わが国周辺諸国の動向等枚挙にいとまがありません。私達の周辺でも理解が困難な社会現象、事件がとりあげられるようになっていきます。こうしたことから、足下はともかく、ともすればわが国の将来について、漠然とした不安感、無力感の中でうつうつとした気分、ひいては暗い姿しか描けなくなっているか気になるところです。

話は変わりますが、歴史家の鳥居 民氏とりい たみによる『昭和二十年』という大作があります。読まれた方も沢山いらっしやると思いますが、同氏が戦後膨大な資料を踏まえ、先の戦争を重層的、多面的に、昭和二十年一月からの動きを記しつつ、描いた作品です。ちなみに一月一日は、長野県野沢高等女学校の勤労働員の様子や近衛公の動きなどから始まっています。これを読んで思いますのは、文字通り絶望的な毎日、日本として何一つ自主的対応等をなし得ない状況、そして終戦、占領下という時代を経て、私達の先人達は生き抜き、今日の基礎を築き上げてこられたことは、大変な偉業であると思わざるを得ないとともに、穏やかで格差の比較的小さな、安定したこの社会を誇りに思うところです。

現在の私達を取り巻く状況は容易ではありませんが、こうした歴史と経験に学びつつ、世界に貢献、解決に向けての一歩を踏み出すことも可能ではないか、そんなことを感じさせる一年になってほしいと思います。